

福島県男女共生センター図書室だより

第 92 号

2024. 12. 20

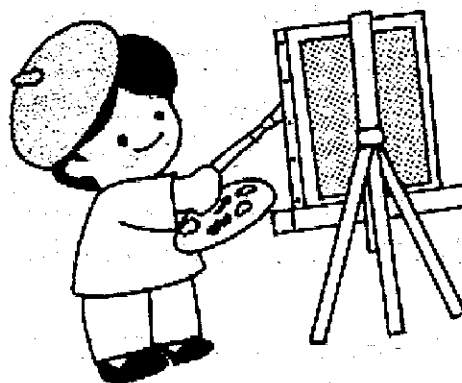
ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

自分らしく生きる

— ありのままを受け入れる —



分類番号 6108 ハ

「教室はまちがうところだ」

蒔田晋治/作 長谷川知子/絵

子どもの未来社

絵本の表紙には、タイトルがおおらかな文字で「教室はまちがうところだ」と書かれ、笑顔の先生が両腕を広げて子どもたちを胸に抱きかかえ背中にものせて描かれています。生きる力と溢れるエネルギーを感じて、早速、絵本のページを開いていきました。

文字で表現された詩のイメージとぴったりの臨場感溢れる絵が力強く子どもたちの心を表現しています。先生の質問にやっとの思いで答えようとしたら、ドキドキ緊張して声に出せずに固まってしまう。何度か繰り返すうちに言いたいことが言えてくるというメッセージ、間違いを恐れずにどんどん意見の出る活発な教室を作り上げていく様子が、明るく楽しく展開されていきます。

とても懐かしい場面もあり、子どもたちと先生の笑顔に元気を貰えるお勧めの一冊です。
(S. S.)

分類番号 3206 ノ

「デンマーク発 ジェンダー・ステレオタイプから自由になる子育て」

—多様性と平等を育む 10 の提案—

セシリオ・ノアゴー/著 さわひろ あや /訳

ハウレーカ

著者は「はじめに」で、「私たち大人がジェンダー・ステレオタイプや凝り固まった性にかんする思い込みに出会ったとき、こどもの成長を支えながら、どんな心構えで、どのように子どもとかわればよいかを考えるために書きました。」と述べています。

確かに言われてみれば、「男の子は青の洋服、女の子はピンク」「ランドセルの色は、カーテンの色は・・・」と周りから聞こえてくるのは思い込みや偏見からくることが多いのではないのでしょうか。

大人も子どもも自分らしく生きるためには、どうすればいいのか、糸口を探るための方法や考えを学べる一冊です。

以前、「血液型は何？」と聞かれたことがあり、答えると「こういうタイプなのね」と判断され戸惑ったことがあったのを思い出しました。このことと似ているかと思いました。

著者は「ありのままの自分であることだ」と言っています。子どもを指す言葉は性別を限定しない三人称、“hen” というジェンダー・ニュートラルな単語を使っています。

どんな子どもにも等しく同じ権利が保障されていても、現実にはそうではないことも多いのではないのでしょうか。家庭、地域によっての違いもあるだろうし、国が違えばさらにはっきりするでしょう。職業選択にも少なからず、思い込みが入って来てはいないのでしょうか。気づかされた気がします。

国連が2015年に採択した、「持続可能な開発目標 (SDGs)」では17のグローバル目標が提唱されました。その中の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」が掲げられています。全世界が2030年までに達成する目標です。国の事情を乗り越え、その目標に向かって進んで欲しいと願っています。
(T. Y.)

分類番号 4102 ノ

「ぼけますから、よろしくお願いします。おかえりお母さん」

信友直子/著

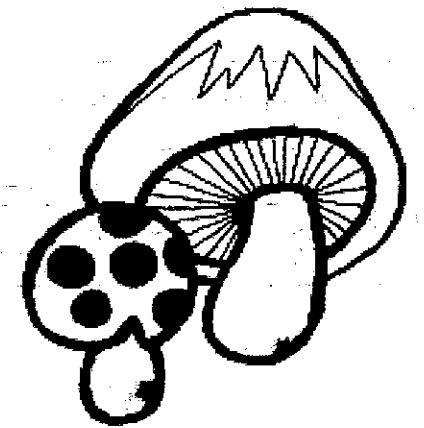
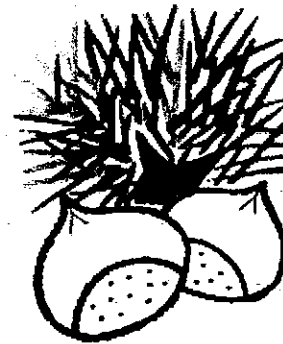
新潮社

本書は「ぼけますから、よろしくお願いします」の著者がご両親のその後を描いたものです。

元は地元中国新聞へのエッセイ「認知症からの贈り物」の執筆で、2020年4月1日から週1回、2ヶ月の連載でしたが、反響が大きく約1年半も続きました。そして、広島以外の方にも読んでもらいたいと、一冊の本になったものです。

老々介護の中にも、素晴らしい夫婦愛・家族愛を感じ、こんな最後の時を迎えられたら幸せだろうな〜と、涙があふれました。高齢化社会の目を背けてはいけない現実の中に、かすかに光るものがあることを伝えてくれていると思います。

今年の11月で104歳になるお父さんは、今も呉で1人暮らしをされているようです。「あの世でも仲良う暮らそうや104歳になる父がくれた人生のヒント」が発刊されるようです、こちらも楽しみに読ませて頂きたいと思います。
(K. M.)



分類番号 6104 ホ

「鈴の鳴る道〈花の詩画集〉」

星野富弘-著

偕成社

著者の星野富弘さんは、1970年大学を卒業し体育の教師になった年、不慮の事故で手足の自由を失い、1972年わずかに動く口で筆をくわえて詩画を描き始めました。本書は1986年に第1刷がそして2001年には305刷にもなる、著者の手記です。

先日何十年振りに草木湖にある美術館を訪ねましたら「遺作展」に驚きました。今年4月28日にお亡くなりになったとの事、心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

本を開くと、著者にしか見えない世界が心に染み込んできます、身近な人・物に対する瑞々しい感性に、私たちが気がつかない沢山のことを教えてくれます。温かい絵や言葉の数々は、忘れていた何かを思い起こさせ、明日への希望をあたえてくれます。

私はこの中で「キダチベゴニア」が好きです。「見ているだけで何も描けず一日が終ったこんな日と大きな事をやりとげた日と同じ価値を見出だせる心になりたい」人間の弱さを植物の美しさに励まされ・癒され、日々を生きることの素晴らしさを伝えてくれています。

「でこぼこ道を迂回せず 鈴を鳴らしながら進みたい」

是非見て・読んで頂きたい一冊です。

(K. M.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	オッサンの壁	佐藤千矢子	講談社	1102 サ
2	「わきまえない女」だった北条政子	跡部蛭	双葉社	1203 ア
3	さらば、男性政治	三浦まり	岩波書店	2101 ミ
4	捨てない生きかた	五木寛之	マガジンハウス	4101 イ
5	最後まで在宅おひとりさまで機嫌よく	上野千鶴子	中央公論新社	4101 ウ
6	父がひとりで死んでいた 離れて暮らす親のために今できること	如月サヲ	日経 BP	4102 キ
7	老害の人	内館牧子	講談社	6102 ウ
8	女芸人の壁	西澤千央	文藝春秋	6107 ニ
9	夜明けをつれてくる犬	吉田桃子	講談社	6108 ヨ
10	ハイヒールを履かない女たち 北欧・ジェンダー平等社会のつくり方	あぶみあさき	かもがわ出版	8201 ア

利 用 ガは イ ド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話
の使用はご遠慮ください。

編集後記

今年度最後の散歩道になりました。
月日の過ぎるのが早く感じる今日この頃です。

皆様はもう紅葉狩りには行かれましたでしょうか？ボランティアルームから見える未来館の紅葉が素晴らしいきれいです。

今日は富士山の初冠雪のニュースも、こちらもまもなく葉が落ちて山には雪の便りが届くでしょう。

これから師走で何かと忙しい時期ですが、暖かい部屋でお気に入りの一冊を読む時間が、取れるように日々心掛けたいものです。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成グループ

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)